

京都大学における環境教育・研究、 参画・地域連携の実態について

吉積、宮澤

環境教育について

- 全学共有教育(全ての学部生対象)
 - 全学共通科目においては、多様な環境・持続可能性に関する講義が提供されている。
 - しかし、多分野にまたがるものも多いことから、群分け等にて分断され、体系的に整理することができていない。特に現在、社会適応科目群となり、低迷している講義も多いと思われる。
- 専門教育
 - 多様かつユニーク、先端の教育(専攻・コース・講義)や職員等向けセミナー等が提供されている。
 - しかし、体系化やネットワーク化は十分に(わかりやすく)なされていない。
 - また、安全教育も十分とは言えないと考えられる(セイフティ・化学物質とも連動)。

環境研究について

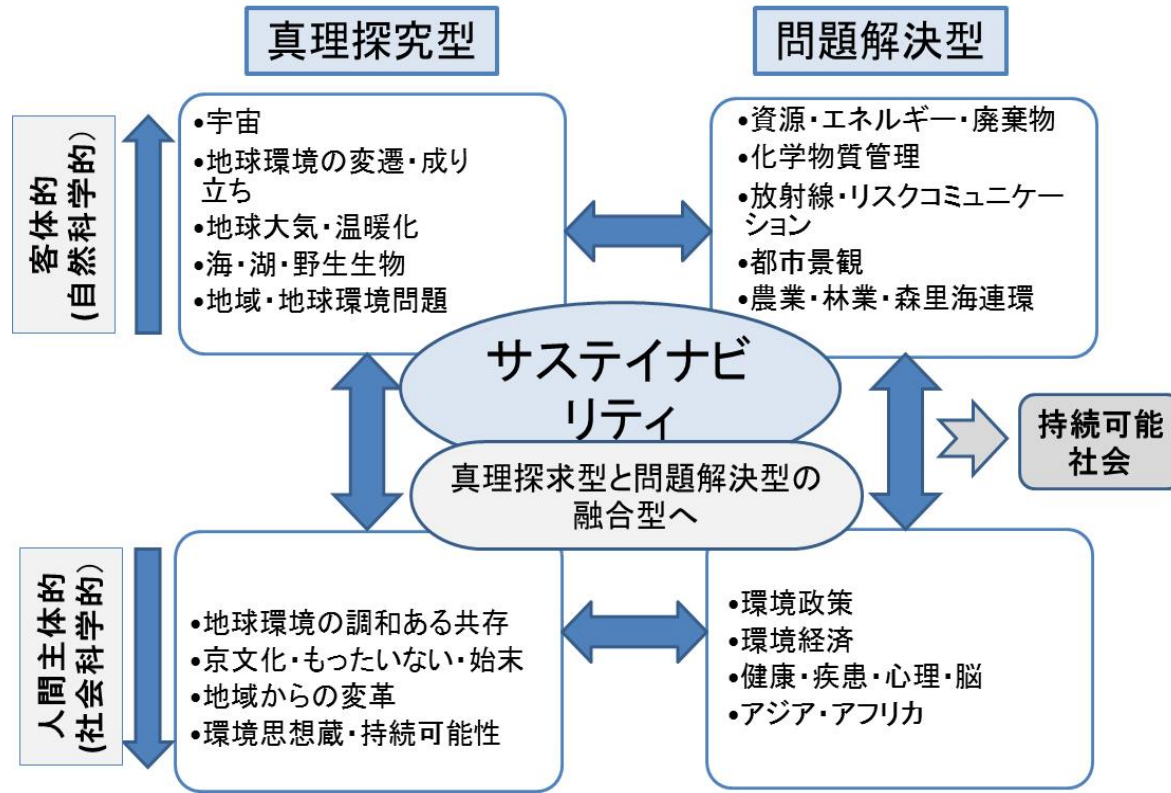
- 環境・持続可能性に関する研究

- 多様な環境・持続可能性に関する研究が進められている。

- しかし、体系化やネットワーク化は十分に(わかりやすく)なされていない。

※参考: 毎年、環境報告書にて先端研究の紹介等も行っている。

- 学問領域としては、
まだまだ未熟?
(右図: 環境学の
概念とキーワード)



啓発・参画、地域連携について

- 啓発・参画

- 新入生向けに、毎年啓発物を制作・配布（院生には機構から説明も）

- 環境安全保健機構、エコ〜ると京大、各種サークル、環境系部局等によるイベント

- エコ宣言WEBサイトやSNS運営 など
⇒まだまだ参画者数は少ない！

- 地域連携

- 研究グループ単位での連携が活発に行われている。COC事業（知・地の拠点事業）にも環境系の取組がある。

- しかし、ネットワーク化や体系化は十分でない。

新入生向け啓発物（2016年度）へ

エコ
CODE2015
（壁ステッカー）



エコCODE2014
（クリアファイル）



エコCODE2013
（動画と連動）

